

令和3年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

| | |
|-----|-------------------------------------------------|
| 団体名 | ためま株式会社 |
| 事業名 | 関係人口のコミュニティ・エンゲージメント・プラットフォームの社会実装と人的インフラ構築のモデル |

- 位置情報付きの「かかわりしろ」を住民自身が掲出する「人がつながるための情報基盤」を構築するプロセスを通じて、熊本県人吉球磨地域における「よそ者を関係人口として受け入れる」意識変容をモデル化した。
- 農業体験とリモートワーク移住からなる「アグリ・スマートシティ実証プロジェクト」の紹介や、地域課題を取り上げたワークショップ等により、地域住民等と理想の地域の未来像を共有して、取組を進めた。

主な活動内容

1. 農業体験・リモートワーク移住の紹介とワークショップ開催

- 9月、1月、2月に現地にて説明会やワークショップを開催した。
- 取組の説明は、10市町村の首長、市職員、市民など100名以上に対して行った。
- 抽象化した地域課題から自分の地域に置き換えて考えるワークショップは、人吉市職員を中心に人吉市民、周辺町村市民等へ22名に対して行った。

2. 関係人口とコミュニティエンゲージメントプラットフォームの構築実施

- 2月1日にプラットフォームサービスを公開した。
- 9月以降、準備や協議を重ね、人吉市内向け情報基盤「ためまっぴ人吉」と、市外の関係人口に向けた発信用に「ためまっぴ人吉球磨」を構築し、人吉市広報紙、プレスリリースを発売した。
- 関係人口創出に向けて、熊本県球磨地域振興局、関東関西の熊本県人会等で告知し、アンケートを配布した。



人吉市職員ワークショップ R5.1.18-20



人吉市 市民団体・事業発表 R5.1-2

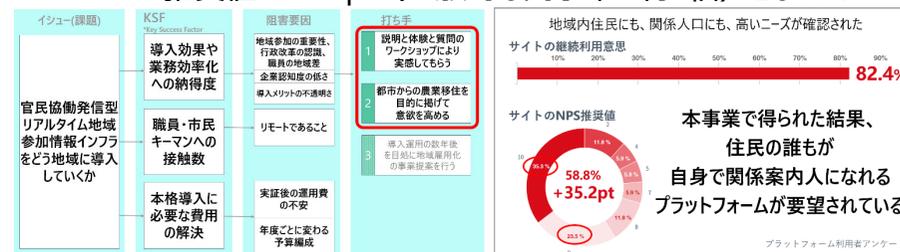
主な成果

1. プラットフォームの利用者（関係人口や地域住民）の声

- 関係人口（都市部住民等）からは、「住まいが大阪で人吉球磨地域の情報入手はSNSからのみだったが、このアプリでリアルタイムで小さなイベントまで知ることができ、とても便利だ」などの声があった。
- 地域住民からは、「人吉のみならず、人吉球磨全体のイベントが掲載できるよう探しやすい。今までだとイベント情報は各自治体のホームページもしくはSNSに飛んで、探したい情報がすぐに見つからないことが多々あった」などの声があった。
- その他、リモート移住の紹介では何をどのように準備していけばよいかイメージがわかりづらいと言った声や、ワークショップでは普段考えることのないことを振り返る機会になった、の声があった。

2. 事業を通じて得られた気づきや知見

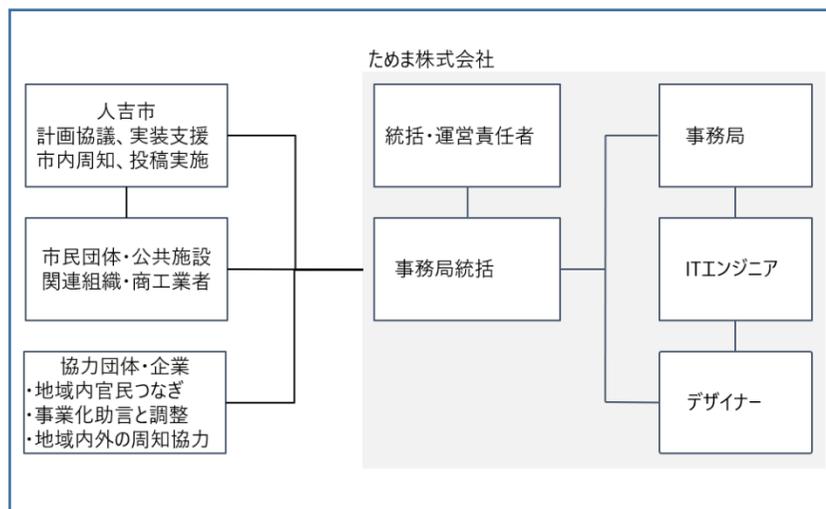
- 農業体験・リモートワーク移住は、農家側の即戦力のニーズと噛み合わず住居などの調整にも時間が掛かるため関心はさほど高くなく、体験移住時の関係を深める情報基盤の整備より前に、地域内の情報不足による人のつながりの希薄化の課題があった。
- 地域内外の利用者アンケートでは、「今後利用したい」が82.4%、NPS推奨値+35.2pt（一般的な高水準の約2倍）となった。



人吉市市民ワークショップ R5.1.18

人吉市 事業説明 発表 R5.2.10

事業実施体制・関係機関



| 団体名 | 役割 |
|------------|------------------|
| 人吉市 | 庁内の実証事業調整 |
| JICA熊本 | 人吉球磨地域のステークホルダ連携 |
| ひごラボ | 人吉球磨地域のステークホルダ連携 |
| 熊本県球磨地域振興局 | 県人会等の関係人口への周知 |
| 熊本学園大学 | 人吉市民団体の紹介 |
| ためま株式会社 | 実証事業の事務局 |

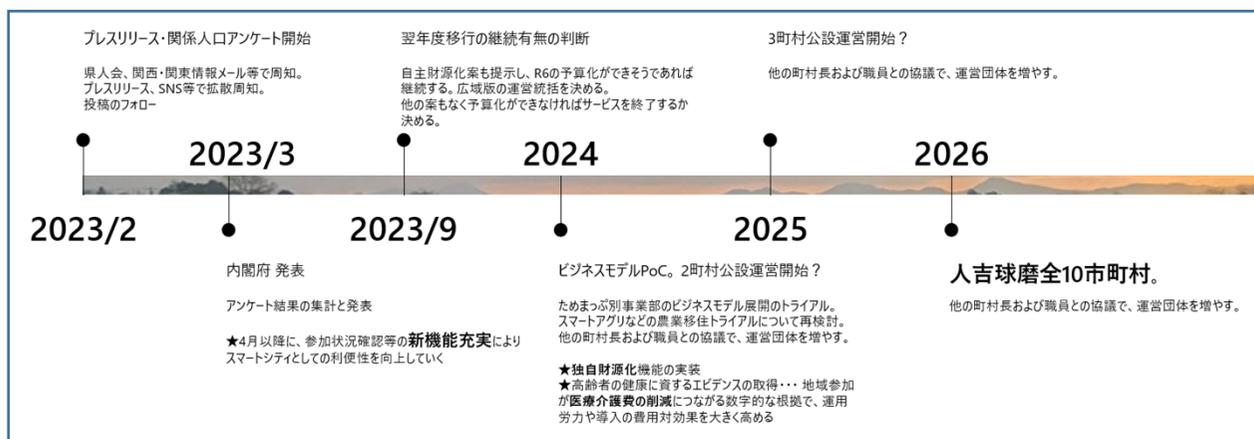
デジタル分野に関する取組状況

- 地域の埋もれた情報には、人と人をつなぐ、地域参加の情報が多々含まれており、その情報自体が「**かかわりしろ**」である。その埋もれた情報を可視化するプラットフォームを構築することで、小さく多様で分散型の住民による「**関係案内所**」をつくることができる。地域の大きな声のステークホルダに引っ張られた古いしきたりや、ITリテラシーの違いの壁を乗り越えて、この構築と運用に関わる人たちを「**関係案内人**」として捉えて、取組を行った。
- デジタル化に際しては、撮影したチラシ等の広告を位置情報付きで簡単に投稿・閲覧できる特許サービスを提供し、**人吉市内の住民向けの情報は「ためまマップ人吉」に投稿しつつ、関係人口向けにも公開できる情報は「ためまマップ人吉球磨」にチェックするだけで共有することで、土地勘のない関係人口にも「かかわりしろ」の情報を届ける仕組みとした。**
- 司馬遼太郎が「日本でもっともゆたかな隠れ里」として愛した人吉球磨地域には、10市町村で生活圏を共にしており、地域全体での交流や協働を望む住民の声が多かった。その中で人吉市は、スーパーシティ構想に取り組むなど、地域を引っ張る先導者の役割を担っている。今回の取組により、人吉市と球磨地域の、内外に向けた情報基盤を新たに実証・実装できたことで、地域住民がよそ者を「**関係人口**」として意識変容する取組を開始することに成功した。



次年度以降の事業展開

- 令和5年9月まで実証を継続、検証し、次年度の本格導入と予算化を判断する。 並行して他球磨地域9町村での自治体運用の可能性を探り、状況に応じて自主財源化の検証も行う。
- 今回の人吉球磨地域での全国共通化した情報基盤であるためまっぷの利用者アンケートと、ワークショップの成果は他自治体でも同様に地域住民と関係人口に必要とされる有効な検証結果と考えられる。既存導入自治体へのノウハウの共有と、関係人口コミュニティ（かかわりラボ等）を通じて新たな自治体への展開を図る。
- 令和5年度に国家戦略特区である兵庫県養父市にて自治協議会規模にリサイズした個別プラットフォームと、市内外に公開する市民ポータル併用で、今回の関係人口モデルの横展開を実施する。



予算について

(支出)

人吉球磨地域10市町村共同導入—200万円/年間

10市町村個別導入 各100万円~/年間

(収入)

導入自治体毎の人口規模で按分 100万円~/年間

(2022年9月時点)

自立・自走化にあたっての課題

- 自主財源化による自立自走にはいくつかのモデルを並行で検討しており、既存の業態を生かした連携や協業、SDGsやCSRに叶う企業ニーズに応えるなど、弊社独自に地域経済に循環を生む形の取り組みを進めている。課題は人と資金の負担が大きく、地域の要望に応える注力できていない。
- どの変化も手放しでは実現せず、この事業も継続していくことが課題となる。現地の運営団体が、地域内外への情報伝達の重要性を実感し、中間支援的な立場で俯瞰し、情報投稿と閲覧認知を広げていく必要がある。そのために定期的な運営会議が効果的に進められるのではないかと感じる。